

J A 自己改革推進レポートについて

令和5年11月24日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

①とっとり協同労働推進ネットワークを設立

J A、生協、漁協、森林組合、中国労金、ワーカーズコープなど13組織は10月7日、鳥取市で「とっとり協同労働推進ネットワーク」を設立した。少子高齢化や地域社会の希薄化、労働力不足など地域の課題解決に向け協同労働を通じ、持続可能な地域共生社会づくりを目指す。このような労働者協同組合に向けたネットワークは、県内で初めて。J A グループ鳥取からは、J A 鳥取県中央会の谷垣重彦専務が出席した。

2022年10月1日に労働者協同組合法が施行され、全国で労働者協同組合59法人が協同労働を通じ、くらしや営農、福祉、育児、医療に関することなどあらゆるテーマに対して様々な活動を展開し、課題解決に取り組んでいる。労働者も就労機会のマッチングや、副業制度の活用など新たな働き方が期待される。

県生活協同組合連合会の松軒浩史会長は「持続可能な地域社会の活性化に向け、協同組合間連携の強みを活かして取り組みたい」と決意を込めた。

令和5年度はホームページの開設、他県事例の視察、まちづくり講座などを実施する予定。また、12月に運営委員会を開催し、各構成団体の取り組み状況や学習会を行うなど、同ネットワークへの加入促進や啓発活動に取り組む。

②家の光愛読者のつどい

J A グループ鳥取家の光・日本農業新聞協議会は10月10日、琴浦町のまなびタウンとうはくで「家の光愛読者のつどい」を開催した。協同組合活動の原点である、教育文化活動の重要性を再認識し、「家の光」をよりどころにした組合員間の結束強化に向けた取り組みを申し合わせた。

今年は4年ぶりに実開催で行われ、各J A 女性会会員をはじめ、J A ・連合会の役職員など約200人が出席した。同協議会の栗原隆政会長は「教育文化活動の重要性を再認識し、協同の輪が県内で一層拡大していくことを期待する」と話した。

記事活用体験発表を行い、J A 鳥取中央女性会北条支部の中野美紀さんが最優秀賞に選ばれた。中野さんは来年2月の全国家の光大会で県代表として発表する。購読普及や文化活動に優れた支所・支店やJ A 女性会などへの表彰も行われた。

記念講演では、仏教僧侶で著述家の草薙龍瞬さんが「人生がスッキリとととのう暮らしのヒント」と題して講演され、参加者は家の光を活用した記事活用や文化活動に向け意識を高めた。



③ J Aグループ鳥取記者会見「食パラダイス鳥取県 みらい宣言」と現地視察

J Aグループ鳥取は10月13日、鳥取市でJ Aグループ鳥取トップ広報「食パラダイス鳥取県みらい宣言」と現地視察を行った。持続的な農業生産・経営基盤の維持に向けた取り組みを説明し、地域農業の応援団として報道機関の情報発信強化に期待を込めた。

今回で6回目を迎えたトップ広報は報道機関9社とJ Aグループ鳥取の役職員31人が参加した。J A鳥取県中央会の栗原隆政会長は「地域農業をはじめJ Aグループ鳥取の取り



組みについてより理解を深めてもらい、県内農業の発展につなげたい」と意気込んだ。梨、ブロッコリーなど県内青果物の販売実績をはじめ、和子牛価格対策にかかる要請活動、J Aグループの直売所、地場産プラザ「わったいな」の売上状況など、持続可能な食料・農業基盤の強化を進めていることを説明。国消国産月間では、県内のJ A直売所で「地産地消が、『国消国産』応援の第一歩！」と印字されたシールを貼り付け、地元産をPRしていることを紹介。地域で生産された農畜産物を地域で流通し消費してもらうことの重要性を訴えた。参加者から食料安全保障の強化やJ A直売所の取り組みなどについて質問があり、活発に意見交換を行った。

現地視察では、J A鳥取いなば福部らっきょう加工センターと鳥取県畜産農協の食肉加工施設を訪れ、参加者は産地振興の取り組みに関心を示した。

④第31回せいきょうまつり 国消国産をPR

第31回せいきょうまつりが10月21日、鳥取市の地場産プラザ「わったいな」周辺で開かれ、J Aグループ鳥取は県ブランド米「星空舞」を振る舞うなど、J Aグループが進める国消国産をPRした。



県生活協同組合連合会が主催したイベントは、協賛組織など60以上のブースが出店し、多くの家族連れなどでにぎわった。

試食では、収穫したばかりの炊き立て「星空舞」を約600人に振る舞った。アンケートも実施し、回答者には「星空舞」の精米2合袋やオリジナルグッズをプレゼントした。訪れた親子は「炊き立ての星空舞はおいしかった」と笑顔で話した。

県内J Aも参加し、大山乳業農協は白バラのホットミルクの振る舞い、鳥取県畜産農協は県産牛の串焼きを販売しPRした。

J Aグループは今後もイベントを通じ、持続可能な地域社会の活性化に向け、協同組合間連携をより一層深めていく。

⑤中学校駅伝競争に協賛 JAグループ鳥取

JAグループ鳥取は10月24日、鳥取市のヤマタスポーツパークで開かれた県中学校駅伝競走大会で、県ブランド米「星空舞」や県産梨「王秋」などを提供した。JAグループは地域教育の一環で協賛し、JAグループが進める国消国産をPRし、持続可能な地域農業に関心を持ってもらう。

県内中学校から男女各34チームが出場し、男女優勝チームに「星空舞」2キを計22袋と「青春～熱き想いをタスキに込めて～」と書かれた決勝ゴールテープを贈った。生徒数150人以内で最高位（優勝を除く）の学校に「わかば賞」として「王秋」を贈り、健闘を称えた。

女子の部のスターターを務めたJA鳥取県中央会の栗原隆政会長は「星空舞のように、一人ひとりが輝くスター選手として悔いのないレースをして欲しい」と激励した。男子の部は中央会の谷垣重彦専務がスターターを務めたほか、国消国産のぼり旗やポスターを掲示し、大会を盛り上げた。



結果は次の通り。

▽男子優勝＝琴浦町立赤碕中学校▽女子優勝＝八頭町立八頭中

▽わかば賞＝倉吉市立久米中（男子）、同（女子）

（2）大山乳業農業協同組合の取り組み

白バラ牛乳×卓球で地域と交流

大山乳業農協は9月18日、倉吉市体育文化会館で卓球交流イベントを開催した。

同組合がスポンサーを務めるプロ卓球選手の松平賢二選手を講師として招き、鳥取県中部の小中学生を対象に卓球の基礎的な技術指導やチャレンジマッチなどで交流を楽しみ、体づくりについての講演なども行われた。

講演では松平選手自身も日頃より白バラ牛乳を飲んでいること、体づくりに牛乳・乳飲料が重要であることを呼びかけ、卓球を通じて地域の子どもたちがより白バラ牛乳に親しみを持ってもらえる機会となった。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

各生協若手職員合同交流研修会を食肉加工場と美敷牧場で開催

鳥取県畜産農協は10月6日、7日に同組合の食肉加工場と美敷牧場において各生協若手職員との交流研修会を開催した。この交流研修会はC O - O P牛乳産直交流協会の主催で行われ、京都生協・コープしが・鳥取県生協の若手職員と大山乳業農協・鳥取県畜産農協の職員が参加した。今回の研修では、生協の若手職員に産直牛の生産現場や産直牛肉の製造工程を直接見て産直商品の理解を深めてもらうとともにJ A職員との意見交換を行い、双方の職員が交流と相互理解を深めることができた。



(4) J A全農とつとりの取り組み

①令和5年度鳥取県白ねぎ販売対策会議を開催

全農とつとりは、9月8日に米子市皆生で「鳥取県白ねぎ販売対策会議」を開催した。

4年ぶりの実開催となり、取引市場や県下生産部代表、県内J A・関係機関など約90名が出席し、10月から出荷がスタートした秋冬ねぎの販売対策の協議と目標達成に向けて結束を図った。



②東京で「和牛のふるさと山陰フェア」を開催

9月28日に東京食肉市場で「鳥取和牛」と「しまね和牛」を県内外に幅広く周知し販路拡大を図ることを目的に、鳥取県と島根県合同による枝肉共励会が初めて開催された。鳥取県牛肉販売協議会として全農とつとりから尾崎県本部長が出席した。

鳥取県出品牛は、20頭中18頭が肉質等級5級、BMS（牛肉脂肪交雑基準）二桁以上も13頭と素晴らしい成績を収めた。特に最優秀賞受賞牛は、ロース芯12.4cm、歩留基準値は82.4%で肉の光沢、細やかさ、脂質も素晴らしく審査員全員一致で選出された。

また、前日の27日には都内のホテルにて前夜祭が開催され、衆議院議員の石破茂氏、市場関係者、購買者、両県関係者が参加し、「鳥取和牛」と「しまね和牛」の魅力をPRした。



③「輝太郎柿」を県内・県外でPR

全農とっては、10月4日、水木しげるロード内の妖怪神社にて「輝太郎柿」奉納式を行った。妖怪神社への奉納は今年で9年目となり、観光客や地元の方へ試食と配布を行った。試食した方からは、「甘い」「おいしい」とうれしい言葉をいただいた。



10月6日には東京都中央卸売市場大田市場にて、首都圏での「輝太郎柿」の認知度向上と販売促進を兼ねて宣伝会を開催した。4年ぶりに試食の提供も可能となり、50食用意した試食は瞬く間になくなり、「輝太郎柿」への期待を伺うことができた。



宣伝会では、鳥取県産杉箱入りの「輝太郎柿」の展示・販売も行い、集まった市場関係者へ大いにアピールした。セレモニー終了後には、市場内の仲卸店舗を表敬訪問し、「輝太郎柿」をPRした。

(5) JA鳥取信連の取り組み

農業者所得向上にかかる諸施策について

JA鳥取信連は、農業者に対して農業関連資金の借入負担の軽減を図ることで、その経営をバックアップして農業所得向上に資することを目的とし、以下の施策を講じている。また、本施策の実施に際し、本会で周知資料としてチラシやポスターを作成しているほか、JAと本会担当者による農業者への同行訪問等により、その活動を促している。

① JAバンク利子補給制度

平成27年度より、農林中央金庫と連携し、農業関連資金の融資について貸付後3年間（農業近代化資金は貸付後5年間）を無利息とする対応を行っている（借入額100万円以上が対象）。

【利用実績】

(単位：件、千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用件数	972	1,062	1,086
利子補給額	15,994	13,090	14,125

※各年度の利子補給対象期間は、毎年1月から12月までの1年間。

② 農業近代化資金への保証料助成

平成30年度より、鳥取県農業信用基金協会への一括前取保証料金額を本会負担としている。上記①のJAバンク利子補給制度と併せて利用すると、5年間実質金利負担はゼロとなる。

【助成実績】

(単位：件、千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象件数	94	83	90
保証料助成額	4,716	5,455	6,252

※各年度の保証料助成対象期間は、毎年2月から翌年1月までの1年間。

(6) J A 共済連鳥取の取り組み

LA・スマサポ管理者マインド研修を開催

J A 共済連鳥取は9月7日、LA・スマイルサポーターの管理者を対象に、管理者として求められる資質の向上およびマインド醸成を目的に、研修会を開催した。

好評だった昨年に引き続き、株式会社ウィンケスト（神奈川県横浜市）の白戸三四郎代表に研修いただき、参加者にとって新鮮で気づきの多い有意義な研修会となった。

本研修では、「どのように部下を育成するのか」ではなく、「部下が成長するうえで上司として何ができるのか、また何をしてはいけないのか」という観点で、「認知バイアス（先入観・思い込み）」を除外し、部下の特徴を正しく「認知」したうえで「対話」を重ねることの重要性について研修いただいた。参加者は「部下との関わり方や自分自身のブラッシュアップにつながった。実績だけを見ず、一人一人と対話をしていきたい」と話した。

今後も管理者の資質向上、LA・スマイルサポーターの育成を通じ、組合員・利用者により安心と満足を提供できるよう努めていく。



以上